

てらうち

寺内ダム洪水貯留による河川水位低減効果について

みずしげんきこう

独立行政法人水資源機構が管理する寺内ダム（福岡県朝倉市）では、令和4年8月15日からの降雨により増水した河川水の一部をダムへ貯め込む「洪水貯留」を行いました。

かなまるばし

この洪水貯留により、寺内ダムの下流約8.5キロメートルにある金丸橋地点では、ダムが無い場合と比べ河川水位を推定で約1.0メートル低減できました。

今回の防災操作は、

さだかわ

筑後川水系佐田川の寺内ダム流域では、九州北部に停滞した前線に伴う豪雨により、8月15日から18日までに総雨量約235ミリメートルの降雨を記録しました。

この降雨により寺内ダムでは、約317万立方メートルの洪水を貯留しました。最大流入量毎秒約110立方メートルの時に、約93%に相当する毎秒約102立方メートルの水をダムに貯留することで、河川水位の上昇を抑える防災操作を行いました。

※ 今回の発表は速報値であり、数値等は今後の調査により変わることがあります。



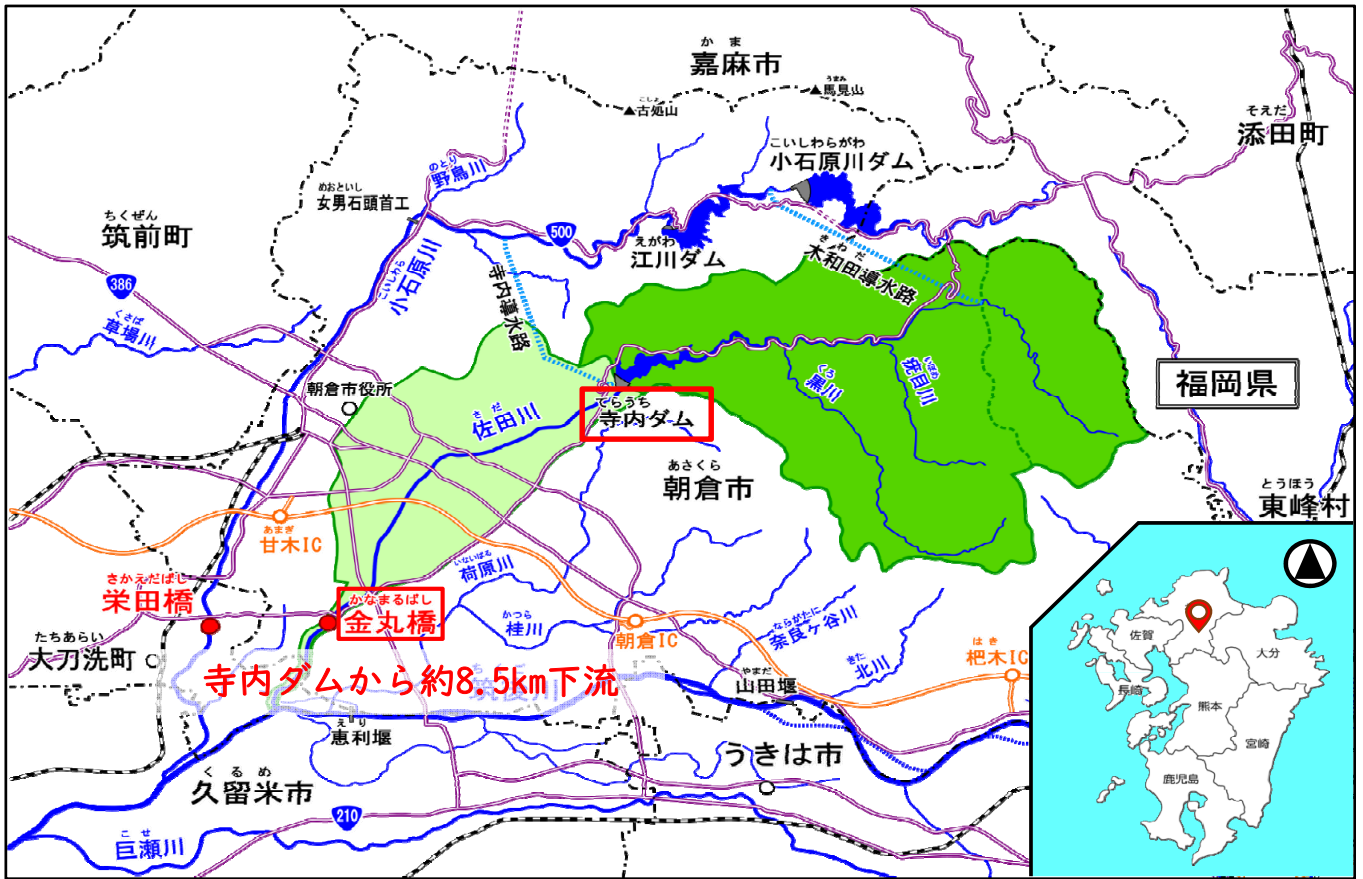
独立行政法人水資源機構
ちくごがわじょうりゆうそうごうかんりしょ
筑後川上流総合管理所



令和4年5月1日
水資源機構は前身の
水資源開発公団の
設立から
60年を迎えました。

寺内ダム位置図

寺内ダムは佐田川（筑後川河口から約42km）の約11km地点に位置する。

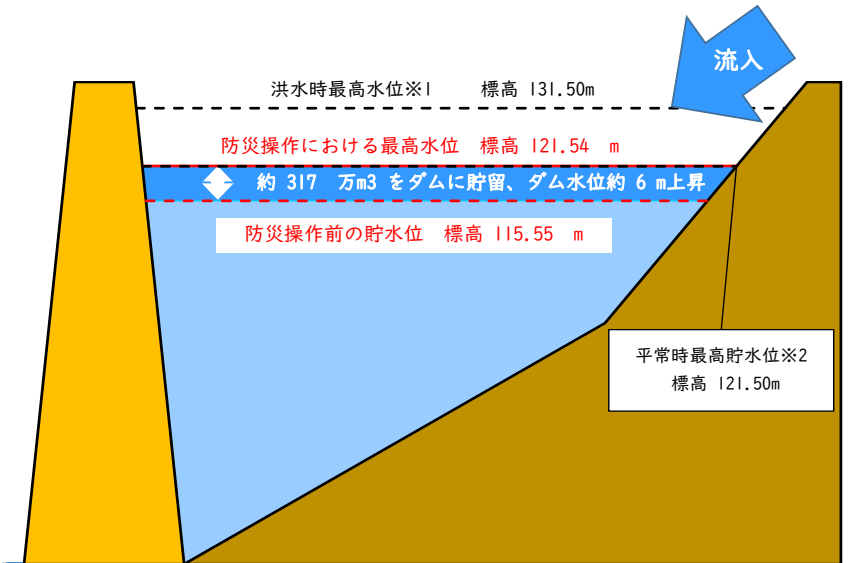


寺内ダム防災操作（イメージ図）

ダム防災操作 YouTube 動画

【流入量】
ダムに流れ込んだ水の量
①最大流入量 毎秒 約 110 立方メートル

最大流入量のうち、約 93%の
毎秒約 102立方メートル
①-②をダムに貯めました。

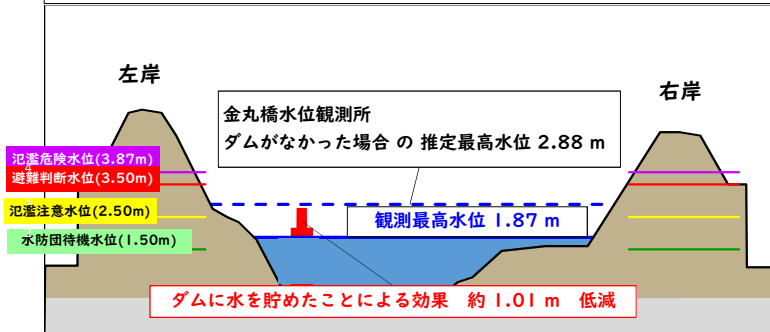


【放流量】
ダムから下流河川へ流した水の量
②毎秒 約 8 立方メートル

※1 洪水時最高水位：洪水時にダムによって一時的に貯留することとした流水の最高水位
※2 平常時最高貯水位：平常時にダムによって貯留することとした流水の最高水位
※今回の発表は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。

防災操作によるダム下流河川水位低減効果

金丸橋水位観測所地点 河川断面図（イメージ図）



【金丸橋 水位観測所】

- ①ダムがなかった場合、推定で氾濫注意水位 2.50 mを超える**最高水位 2.88 m**（氾濫危険度レベル2以上）まで上昇する見込み
- ②寺内ダムの防災操作により氾濫注意水位 2.50 m以下の**最高水位 1.87 m**（氾濫危険度レベル1以下）まで抑えることができた

防災操作によるダム下流河川水位低減効果
金丸橋河川水位観測所付近の河川水位を

$$\text{①} - \text{②} = 2.88 \text{ m} - 1.87 \text{ m} = \text{約} 1.01 \text{ m 低減}$$

※今回の発表は速報値であり、
今後の調査により数値等が変わることがあります。



河川水位の標記については
国土交通省HP「洪水等に関する防災情報体系の見直し実施要領」

金丸橋 水位観測所地点 現地写真（8月18日10時撮影）



金丸橋水位観測所地点 現地写真（洪水前）



寺内ダム貯水池状況

降雨前



撮影日時：令和4年8月15日 11:00
撮影時の貯水位：EL. 115.90m

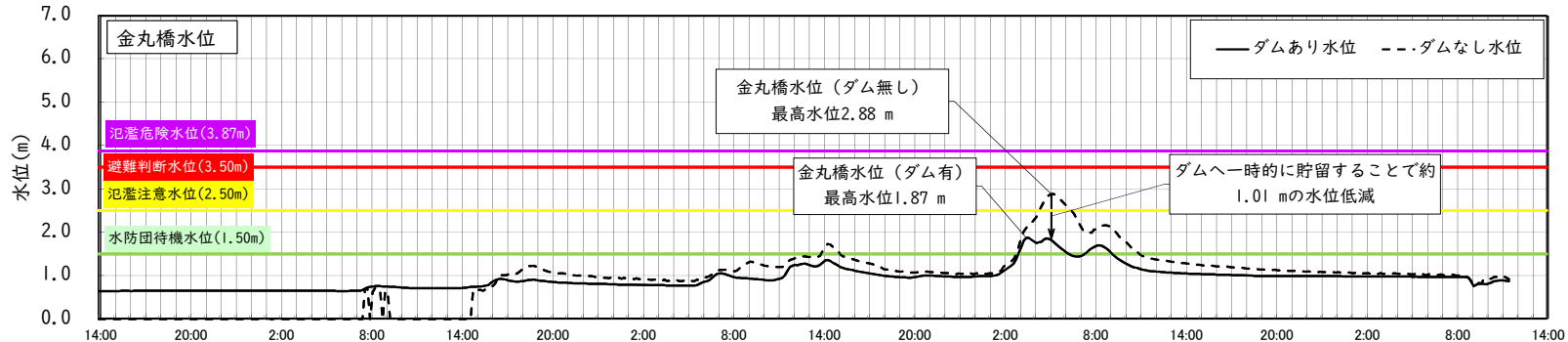
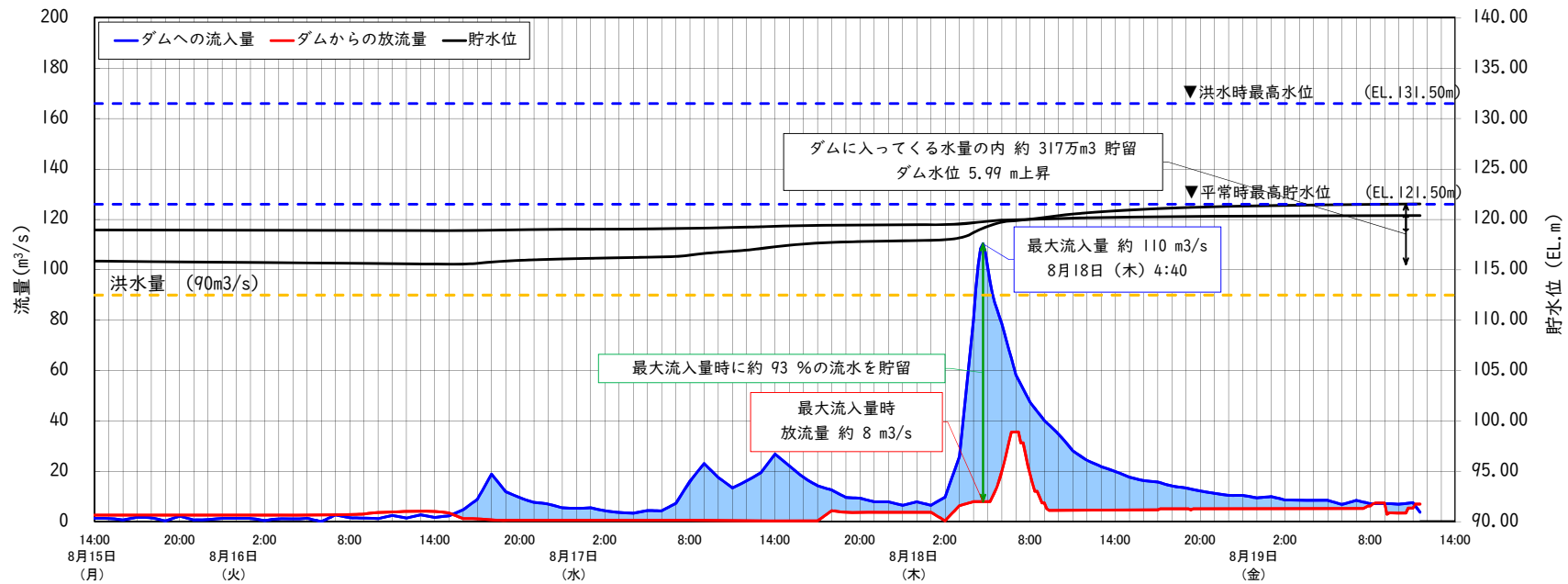
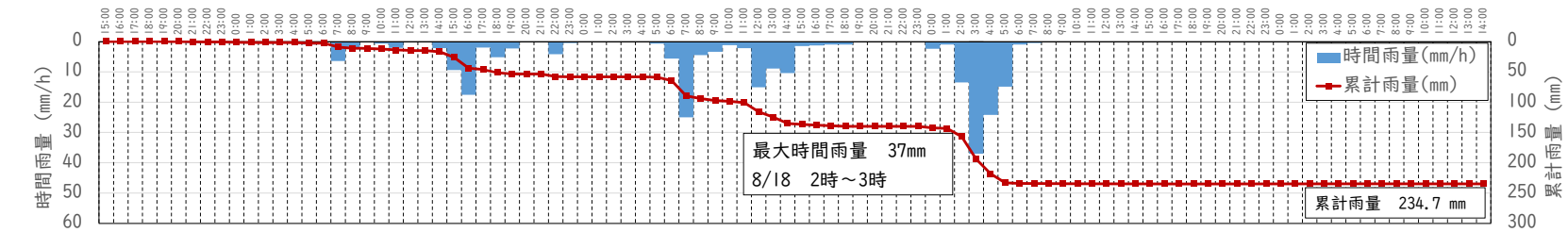


8月19日
9時頃の状況



撮影日時：令和4年8月19日 9:20
撮影時の貯水位：EL. 121.51m

寺内ダム防災操作図 令和4年8月15日 ~ 18日



※今回の発表は速報値であり、数値等は今後の調査により変わることがあります。